

行事の開催状況

【行事名】大田市未来展望フォーラム（総合的な人口減少対策事業）

【開催日】令和6年3月30日（土）13:30～16:15

【会場】島根県立男女共同参画センターあすてらす ホール

【参加者】約100名

【司会進行】大田市政策企画課 田中課長

1. 開会行事

（1）開催趣旨の説明（田中政策企画課長）

- ・大田市では、人口減少問題に対してこれまで様々な取り組みを進めてきたが、歯止めがかからないため、改めて実態把握と対策検討に取り組んだ。
- ・取り組みには、「持続可能な地域社会総合研究所」「調査検討委員会」の皆さまにご協力をいただいた。
- ・このフォーラムは、調査結果や検討状況の報告にあわせ、ともに人口減少問題を考える契機とするために開催するもの。
- ・皆様には、それぞれのお立場から人口減少問題をお考えいただきたい。

（2）主催者代表あいさつ（楫野大田市長）

- ・調査、分析、検討には専門的な知識と広い視野を要するため、「持続可能な地域社会総合研究所」と「調査検討委員会」の皆さまにご尽力をいただいた。
- ・人口減少問題には特効薬はない。価値観も多様化し生活様式も変化するため、長期的な視点で、状況に応じて施策を有機的に連動させる取り組みが求められる。
- ・皆様が、本市での暮らしに幸せを感じ、明るい未来を展望できるよう取り組む。
- ・大田市が一体となりこの難局を乗り越えるため、ともに考え、ともに取り組んでいただきたい。

2. 調査分析結果の報告

報告者：持続可能な地域社会総合研究所 所長 藤山浩 氏

- ・パワーポイントを用いて調査分析の結果を報告。（スライド番号3～66）

質疑応答：会場からの質問に対して藤山所長が回答

Q 自分は多文化共生の取り組みを進めており外国人との関りが深い。大田市の人口の2%は外国人であり、企業の中でも外国人材無しではやっていけないところがたくさんある。人口減少対策においては、外国人との関わりを考えないといけないと思う。

A 外国人は20代を中心に在住しておられる。全国の成功例を見ると、外国人を単なる労働力として見ていない。コミュニティの中で相互にリスペクトし相互に交流する場があるという共通点がある。大田市でもそのような動きが始まろうとしている。ぜひそういった方向になればよいと考える。

Q 先日の山陰中央新報に消滅集落の数字が掲載されていた。大田市が突出して多かつ

たが原因は何か？

A 掲載されたのは、消滅の「可能性がある」ということだと思う。以前の職場でそういった内容を地図に落とし分析もしていた。当時から「地域づくりの基本的な単位」について提案してきたが、単一集落だけの取り組みではなく、卵を取り巻くパックのように公民館や学校なども一緒になって取り組むという仕組みづくりである。今回お話しした地区別戦略もその考えによるもの。集落が小さくなる中で、生活の仕組みや農業なども含めて、広域連携して地区として取り組む必要性である。大田市にはそれを踏まえた定住戦略等をまとめていただきたい。

Q 以前からコロナ関連政策を問題と捉えている。2020年頃の超過死亡が減っていたにも関わらず、この数年は増えている。要因の一つはワクチン接種が推奨されたことである。そのデータも踏まえて対策を立てないといけない。

A 今回は定住を中心とした内容で話をした。質問の内容は自分の専門外のため、十分な回答はできない。課題意識をお持ちであれば、そのような場で議論されればよい。

Q 人口を守るには、地元ならではのものを自信を持って提供する流れをつくるのが大切だと考える。

A それはとても大切なことだと思う。4月5日（金）19:30からNHKの「コネクト」という番組で人口流出をテーマに生出演することになっている。ぜひご覧ください。

3. 調査検討委員会の報告

①調査検討委員会の開催状況について

報告者：調査検討委員会 村岡詩織委員長（島根県立大学講師）

- ・パワーポイントを用いて、令和5年度に開催した「調査検討委員会」で議論した内容について報告していただいた。（スライド番号67～74）

②調査検討委員会からのアクションプラン提案について

※「調査検討委員会」では、グループワークにより、今後大田市で取り組めばよいと思われるアイデアが70案出された。その中からグループごとに具体化を検討したプランを提案していただいた。

A グループ 提案者：調査検討委員会 尾崎楓委員（帝人コードレ労働組合）

- ・「子育て世代にやさしいまちづくり」（スライド番号75～78）

B グループ 提案者：調査検討委員会 尾原智貴委員（公立幼稚園PTA連合会）

- ・「地域資源活用サークルで男女の出会い創出」（スライド番号79～82）

C グループ 提案者：調査検討委員会 松場奈緒子委員（子育て支援団体連絡会）

- ・「地区巡回型マルシェ」（スライド番号83～86）
- ・「中高生と若手起業継業家のリンク塾」（スライド番号87～90）

4. パネルディスカッション

○コーディネーター

持続可能な地域社会総合研究所 藤山所長

○パネラー（席順）

- ・尾原委員・松場委員・笠松奈々さん（邇摩高2年生）・田中瑠一さん（リ）
- ・安食賢一さん（Iターン者／and people 経営）・村岡委員長

○テーマ

- ①大田市の人口減少の要因とその課題
- ②「大田市全体」或いは「各地域」で実践する取り組みとその戦略
- ③大田市の価値と魅力の再発見・共有
- ④未来に向けての提言

○発言の内容・要旨

①大田市の人口減少の要因とその課題

パネラー	キーワード	説明
尾原	地域への愛着	地域への愛着が増せば人口増に繋がる。楽しく豊かな経験が増えれば「ここに住みたい」という想いが生まれる。
松場	ナナメの関係が減少	子にとって「縦」は親や祖父母、「横」は友達、「ナナメ」は地域の人達との関係。近所のおじちゃん、おばちゃんとの関わりが減っている。
笠松 田中	高校生の流出	大田市には進学先が少ない。県内にもビジネスを学べる大学が少ない。
安食	魅力の伝え方	大田市は暮らしやすくいいものがたくさんある。しかしその魅力を十分に伝えきれていない。
村岡	思い切り	中途半端な投げではボーリングのピンも倒れない。どこかを「尖らせる」という思い切りが必要。一点突破する勇気を！

②「大田市全体」或いは「各地域」で実践する取り組みとその戦略

パネラー	キーワード	説明
尾原	みんな家族（写真展とか）	家族の枠を少し広げることができる取り組み。小さな単位で繋がりを深める取り組みを。
松場	チャレンジする大人の背中	大田市は仕事場と暮らしの場が近く、良いところである。子は仕事時の親や大人の背中を見ることができる。
笠松 田中	不便解消	アンケートで「不便」という回答が多い。店や電車の本数が少ないなど。住みやすくすればUターンしてくれる。
安食	つながりネットワークづくり	個々に頑張る人を繋げ、横の繋がりを広げる。その拠点にしたいとの思いからカフェの店名を「andpeople」にした。

村岡	大田を使い倒す	大田の機能を全て使う。大田市でできないことはない。例えば「子の夢を大人が本気でかなえる取り組み」本気で考え行動すると繋がりは深くなる。
----	---------	---

③大田市の価値と魅力の再発見・共有

パネラー	キーワード	説明
尾原	近さ	大田市は素敵な資源が詰まり距離も近い。人の距離も近い。この近さが安心感を生み心地良いことを伝えたい。
松場	旅人を受け入れる心	観光客も保育園留学利用者も旅人。旅人から「町全体で受け入れてくれている」と感謝されている。それにより、我々の愛着もより高まっている。
笠松 田中	大森の町	世界遺産もあり観光客も多い。その中で昔の空間を守って暮らす方々がおられる。
安食	宝が眠っている	大田市にはまだたくさんの宝が眠っている。宝を呼び覚まし、魅力を発信し、活かしたい。
村岡	旧+新	歴史や文化が脈々と流れる旧来の誇りに加え、新しい誇りをつくっていてもよい。枝が増えて伸びれば葉もたくさん茂る。

④未来に向けての提言

パネラー	漢字	説明
尾原	愉	大人がたのしむこと。その背中を子どもたちに見せること。
松場	誇	時代を超え、地域を超え、国境も超えて共に築く誇りを大切に。
笠松 田中	未	大田市は市としてまだ「未」熟だが「未」来がある。今後の取り組みを未来に繋げてもらいたい。
安食	発	大田市を「発」信するエネルギー。良さを「発」見し、市を「発」展させる。
村岡	個	人口数だけ考えてしまうと自分事にならないので「あなたと暮らしたい」を届ける。入る人だけではなく今いる自分自身（個）も大切に。

○大田市長のコメント

- ・大田市に関心を持つ人、関わる人を増やしたい。1億円かけて大田市をPRしても全国には届かないので、1人1人に繋がる取り組みをしていきたい。
- ・こんな事例があった。東京帰りの飛行機内で、胸ポケットに差していた大あなごのペンを見たCAさんが「蛇ですか？」と。大田市の大あなごの説明をしたところ、出雲空港着陸後に「島根県といえば大田市の大あなご、ぜひお召し上がりください」と機内アナウンスしてくれた。こういう取り組みが大田市に宣伝に繋がる。
- ・市民自身が大田市の魅力に気づいていない。市を誇りに思ってもらうため日本遺産の申請をした。市民がそれぞれ情報発信すればもっと関わる人が増え、人口減少にも立ち向かえる。
- ・目の前の課題を一つずつ解決するため努力をするので、皆さんにもご協力をお願い

したい。

5. 閉会行事

政策企画課長

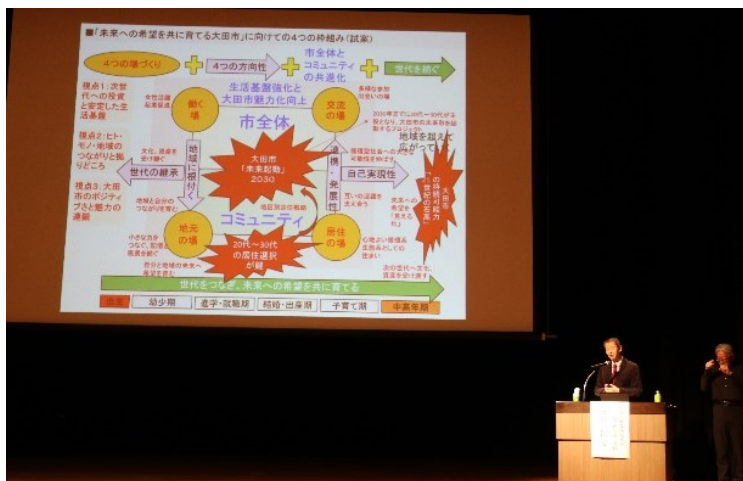
- ・このフォーラムは、人口減少問題を市全体で考える契機にしたいとの思いで開催した。
- ・特効薬がないため、状況に応じた取り組みを試し、検証し続ける必要がある。
- ・効果的な施策を打ち出せるよう取り組みを進めるので、皆さんには情報共有していただくとともに、各地区での議論を深めていただきたい。

6. 記録写真

○開会行事



○第1部

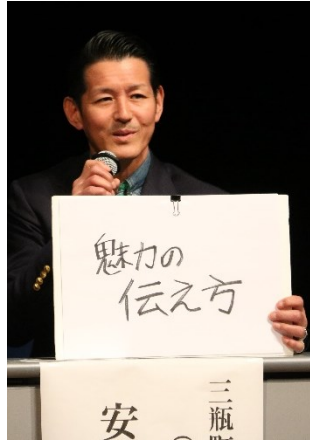
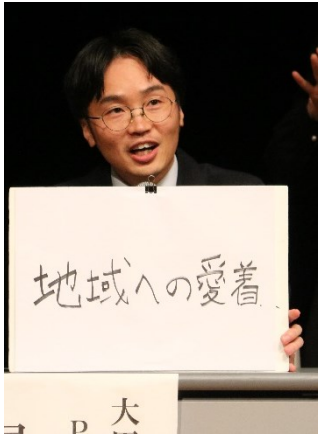


○第2部



○第3部





テーマ4: 未来に向けての提言(漢字一文字)

回答者	内容
尾原 智貴氏 (大田市公立幼稚園PTA 会長)	愉 : 大人がたのしむ。その背中を見せることで次につながる。
松場 奈緒子氏 (大田市子育て支援団体 副会長)	誇 : 時代を超え、地域を超え、国境も超える。
笠松 奈々氏 田中 瑠一氏 (新井市立新井高等学校 2年生)	未 : 大田市は市としてまだまだ未熟。だけど未来もある。
安食 賢一氏 (and people (アンドピープル))	発 : 大田市をPR(発信)していくためのエネルギー。いいところの良さを発信する。大田市が発展していく。
村岡 詩織氏 (鳥根県立大学 講師)	個 : 人口減少は目の前の一人一人が見えてくることでもある。入ってきてくれる人もだけど、自分自身(個人)も大事に。